

# 「喜び」を表す擬態語の意味解釈と用法について

兪 暁 明

## 目 次

1. はじめに
2. 「喜び」を表す擬態語  
一考察対象の選定
3. 意味分類と相関関係
4. 用法上の共通点・相違点
5. 構文的特徴
6. 今後の課題

## 1. はじめに

日本語の擬態語の中に、「喜び」や「嬉しさ」を表す一語群があることは一般的に認められているが、この類のものには一体どういふことが含まれているのか、また、それぞれの意味用法上の相違はどうなっているのか、などについて、決して問題がないわけではない。むしろ、深く検討すべきところが多く残っていると筆者は考えている。

本稿は、上のような疑問・問題点を解くための一つの試案である。具体的には、まず「喜び」や「嬉しさ」を表す擬態語の内訳について先行研究を踏まえた上で検討・検証し、本稿の考察対象を明確にする。それから、「喜び」を表す擬態語の意味分類や相関関係をめぐって詳しく考察する。そして、これらのものの用法と構文的特徴について分析を加える。なお、本稿の考察範囲は、いわゆるA B A B型の畳語に限るということを断っておく。

## 2. 「喜び」を表す擬態語

### 一考察対象の選定

#### 2-1. 「喜び」を表す擬態語とは

言うまでもなく、「喜び」や「嬉しさ」を表す擬態語は人間の感情(または心理的状況・気持ち)を表す言葉である<sup>(1)</sup>。即ち「喜怒哀楽」と呼ばれる語彙に属するものである。もっとも、後述するように、この類のものをまとめて言い表すとき、「喜(喜び・喜ぶ)」のほか、「嬉(しい)」「楽(しい)」「快(い)」などの漢字表記を使う人もいれば、これらの漢字表記を区別せずにあるいは同義語(上・下位概念)として使っている人もいる。例えば、中村(1993)は、「喜怒哀楽」を含むたくさんの語句を「感情表現」と名づけ、その下位分類として「喜、怒、哀、怖、恥、好、厭、昂、安、驚」という十の項目を立てている。それによると、「喜」の中には「めでたい・うれしい・満足・楽しい・快・微笑」が含まれるという。一方、林(1999)は「喜怒哀楽」を中心とした言葉を「感情語彙」と呼んでいるが、「喜と楽は極めて近い概念」という考えから「喜」と「楽」の両者を一つの項目(「喜」)として取扱っている。

このように、人間の喜びや嬉しさ、楽しさ、愉快さなどを表す語彙の分類項目として、「喜」の一字でまとめて表現するのが一般的なようなので、本稿もそれに従って、以下の論述では、「喜び」を表す擬態語(又は「喜

キーワード: 「喜び」の擬態語, 意味解釈, 相関関係, 用法, 構文的特徴

び」の擬態語) という言い方を使うことにす  
 る。<sup>(2)</sup>

2-2. 先行文献に見る「喜び」の擬態語

では、「喜び」を表す擬態語には、一体ど  
 ういうものが含まれているのか、について具  
 体的に見てみよう。

まず、前に触れたように、中村(1993)に  
 おける「喜」という概念はかなり広範なもの  
 であって、全部で239の語句が含まれている。  
 中には擬態語も比較的多くあり、即ち下記の  
 19語である(下線部はA B A B型の畳語、計  
 11語)。「さばさば、ほくほく、わくわく、浮  
 き浮きする、いそいそ、ふわふわ、にこにこ、  
にたにた、にやにや、くすくす、くつつつ、  
 からり、すうっと、すっきり、さっぱり、うっ  
 とり、にっこり、にやり、にんまり」。

次に、国立国語研究所編(2004)は、「快・  
 喜び」に属する擬態語として、「さばさば  
 (する)、わくわく(する)、そわそわ(する)、  
 うきうき(する)、ほくほく、うはうは、い  
 そいそ、るんるん」の8語を取り上げている。<sup>(3)</sup>

次に、山口翼(2003)は、「喜ぶ」と「快  
 い」の二項目の中でそれぞれ5語、12語を挙  
 げているが、重なる部分を除いて、次の13語  
 となる。「うきうき(する)、わくわく(する)、  
 ぞくぞく(する)、そわそわ(する)、さばさ  
 ば(する)、ほくほく(する)、うはうは(す

る)、いそいそ(する)、るんるん、でれでれ、  
 ふわふわ(する)、うかうか、くらくら」。

また、小学館(2001)の付録「擬音語・擬  
 態語集成」では、82の分類が行われ、その80  
 番の「喜ぶ」には「いそいそ、うきうき、う  
 はうは、ほいほい、ほくほく、るんるん、わ  
 くわく」の7語が挙げられている。

林(1999)において、「喜」に属するもの  
 が全部で80語あり、そのうち、擬態語は「い  
 そいそ、うきうき、ぞくぞく、そわそわ、の  
 びのび、ほくほく、わくわく」の7語が含ま  
 れている。

最後に、西尾(1993)は「喜び・楽しみに  
 かかわるものを広く求め」る立場から、「う  
 きうき、ほくほく、わくわく、うっとり、い  
 そいそ、ルンルン」(以上は擬情語)及び  
 「にこにこ」「にやにや」「にたにた」「にんま  
 り」の四つの系列(非擬情語)を挙げている。

上記六文献における掲載状況をまとめると、  
 表1のように示すことができる。

これによって、先行文献ではかなりの食い  
 違いがあることが分かった。つまり、表1の  
 20語のうち、いずれの文献にも収められてい  
 るものはわずか4語(「いそいそ、うきうき、  
 ほくほく、わくわく」)に過ぎず、一方、1  
 文献にだけしか挙げられていないものは全体  
 の三分之一を超えている、ということである。

表1 各文献における「喜び」の擬態語

文 献 (略称)	い そ い そ	う き う き	ほ く ほ く	わ く わ く	う は う は	さ ば さ ば	そ わ そ わ	る ん る ん	ぞ く ぞ く	ふ わ ふ わ	う か う か	く す く す	く つ く つ	く ら く ら	で れ で れ	に こ に こ	に た に た	に や に や	の び の び	ほ い ほ い
中村	○	○	○	○		○				○		○	○			○	○	○		
国語研	○	○	○	○	○	○	○	○												
山口翼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○					
小学館	○	○	○	○	○			○												○
林	○	○	○	○			○		○											○
西尾	○	○	○	○				○								○	○	○		
文献数	6	6	6	6	3	3	3	4	2	2	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1

すると、これらの語は果たして「喜び」の擬態語と考えるべきか、についてさらに検討を加える必要があるだろう。

### 2-3. 専門辞書における意味解釈

この節では、擬音語擬態語の専門辞書における語義解釈に対する検討を通して、表1に現れた20語の、「喜び」という意味用法の有無について考えてみる。使用文献は出版年代順で、①天沼寧（1974）、②浅野鶴子（1978）、③五味太郎（1989）、④アンドルー・チャン（1990）、⑤尚学図書・言語研究所（1991）、⑥阿刀田稔子・星野和子（1993）、⑦飛田良文・浅田秀子（2002）、⑧山口仲美（2003）、の八つである。

まず、専門辞書における収録状況を整理してまとめると表2のとおりである。

次に、これらの語に対する解釈はどう行われているのかを見てみよう。以下、上記20語を二つのグループに分けて、つまり後ろの10語、前の10語、の順で詳しく見ていこう。

八つの擬音語擬態語辞典を調べた結果、後ろの10語のうち、「うかうか、くらくら、でれでれ、のびのび、ほいほい、くすくす、くつくつ」の7語については、いずれも「喜び」

という類の意味内容の記述が全く記されていないことが分かった<sup>(9)</sup>。

残りの「にここに、にたにた、にやにや」に関して、文献①②⑥⑧などの語釈では、確かに「喜び」という意味内容のことばが書き込まれているが、しかし、これらの語義解釈の重み・中核は「笑っている様子」「顔に笑いを浮かべている様子」にあるので、明らかに異質なものと考えるべきであろう（特に、「にたにた」と「にやにや」の二つは、「薄気味悪い笑い」「良からぬ下心のありそうな薄笑い」といういやらしさを伴う表現とされる点に注目すべきであろう）。西尾（1993）も、この三つの語を、「ある種の喜ばしきから生じる笑いの表情」を表す「擬態語」とし、「うきうき、ほくほく、わくわく」などの「擬情語」から外す考えを示している。また、擬音語擬態語を意味分野別に分類しているアンドルー・チャン（1990）や尚学図書・言語研究所（1991）においても、この三つの語を、「喜び」（前者の項目名は「心踊り／嬉しさ」、後者は「浮き立つ」）を表す擬態語の同類としてではなく、「笑い／ほほえみ」または「笑う」の中に収めているのである。従って、

表2 擬音語擬態語辞典の収録状況

文献 (略称)	い そ い そ	う き う き	ほ く ほ く	わ く わ く	う は う は	さ ば さ ば	そ わ そ わ	る ん る ん	ぞ く ぞ く	ふ わ う わ	う か う か	く す く す	く つ く つ	く ら く ら	で れ で れ	に こ に こ	に た に た	に や に や	の び の び	ほ い ほ い
①天沼	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
②浅野	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎
③五味	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	○	◎	○	○	○	×	◎	◎	◎	○	◎	◎	○
④チャン	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎
⑤尚学図	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	◎	◎	◎	◎	×	◎
⑥阿刀田	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎
⑦飛田他	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
⑧山口仲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
備考	注1：◎=見出し語；○=索引収録（他項目内言及）；×=未収録。 注2：③④⑤の三文献では、「くつくつ」の代わりに、「くくくつ」が掲載されている。																			

これらのもの(即ち後ろの10語)はすべて「喜び」の擬態語から除外すべきであろう。

ところで、前の10語——いそいそ、うきうき、ほくほく、わくわく、うはうは、さばさば、そわそわ、るんるん、ぞくぞく、ふわふわ——の方はどうであろうか。これらの語の

意味解釈をより詳しく検討するため、各擬音語擬態語辞典からそれぞれの記述を抜き出して、表3のように整理してみた(下線は筆者)。但し、文献④のアンドルー・チャン(1990)は、いずれも英文による解釈なので、表から外すことにした。

表3 擬音語擬態語辞典における意味解釈

	①天 沼 (1974)	②浅 野 (1978)	③五 味 (1989)	⑤尚学図書 (1991)	⑥阿刀田他 (1993)	⑦飛田・浅田 (2002)	⑧山口仲美 (2003)
いそいそ	心を引かれて、喜んで、調子ついて、何事かをする様子。うれしく感じ、気持ちをはずませて、何事かをする様子。	これからする事に明るい期待があって心がはずみ、動作が調子づくようす。	喜びや期待で、動作が調子づく様子。	嬉しさに…心をはずませ動作をするさま。	期待がかんやう予感があつて、動作が調子づくようす。	喜びや期待感で行動に勢いがある様子を表す。	気分が前向きに明るくなるよなことがあつて、動作がつい速く調子よくなつたり、態度が喜ばしそに積極的になつたりする様子。
うきうき	うれしいこと・よろこばしいこと・楽しいことなどがあつたり、期待できたりして、心が落ち着かない様子。	うれしさ、楽しさ、期待などで愉快になり、気持ちが落ち着かないようす。	うれしくて、心がはずむ様子。浮かれるさま。	心がはずみ…快活軽快なさま。	(未収録)	現在の喜びや将来の好ましいことへの期待などで心が弾んで落ち着かない様子を表す。	嬉しさや楽しいことへの期待で気分が活発になり落ち着いていられない様子。
ほくほく	①たいそう、喜ばしい様子、うれしい様子。 ②やわらかく、水分が少なく、甘味があつて、おいしい様子。(主に、芋やくりについていう。)	①(略) ②予想以上、あるいは期待通りの結果に相好を崩すようす。	(索引掲載のみ)	①よいことがあつて…うれしさを隠しきれないさま。 ②(略)	①(略) ②期待どおりだったり予想以上によかつたりして喜んで思わず笑顔になるようす。	①(略) ②喜びを隠しきれない様子を表す。	①(略) ②嬉しさが外に現れている様子。望みがかなつて喜ばしい状態を言う。
わくわく	期待・喜び・楽しみなどのために、心がはずむ様子、胸が躍る様子。	期待、喜び、楽しみなどで、気持ちがわきあつて落ち着かないようす。	期待やうれしさに、胸がおどる様子。	(未収録)	喜びや楽しみ、期待で気持ちがわきあつて落ち着かないようす。	期待感で心理的に興奮して落ち着かない様子を表す。	期待や喜びのために、心が落ち着かない。不安などのために心が落ち着かない様子を表すこともある。
うはうは	大きな喜び・満足・うれしさなどを感じて、心がおどっている様子・こと。(あまり上品な表現ではない)	大きな満足・喜びがこみあげてくるのを、抑えるようにして味わっている状態。(俗語的表現)	(索引掲載のみ)	大きな喜び、満足に…心が満たされた状態。(喜びをややオーバーに言い表したことで、俗語的表現。)	満足や喜びで笑いがこみあげる声・ようす。(あまり品のよい表現ではない)	非常に喜んでいる様子を表す。(下品なニュアンスがあり、あまり高尚な喜びについては用いられない。)	予想以上の大きな満足感に、自分の品位を忘れるほど笑いがこみあげてくる様子。(やや品格に欠ける表現である)
さばさば	こだわらないことにしたり、あきらめたりして、気分が快く、楽になった様子。また、性格・態度こいやみ・しつこさがなく、感じがよい様子。	①不快感や、こだわりを切り捨てて、さわやかな気分になる状態。②未練や執着を持たず、物事にこだわらない性格。	①面倒なことや嫌なことが片付いて、すっきりした様子。②性格がさっぱりしているさま。	こだわりがなく…動作・性格などがさわやかで不快でないさま。何かがあつて切れて気持ちがすっきりしたさま。	不快なもの、こだわりを切り捨ててさわやかであるようす。	執着がなくなつて爽快である様子を表す。	①後腐れがなく、思い切りのよい様子。②粘着質でない、こだわりのない性格である様子。③すっきりとして爽快な気分である様子。④洗濯した衣類が、よく乾いて清潔感にあふれている様子。

「喜び」を表す擬態語の意味解釈と用法について

	①天 沼 (1974)	②浅 野 (1978)	③五 味 (1989)	⑤尚学図書 (1991)	⑥阿刀田他 (1993)	⑦飛田・浅田 (2002)	⑧山口仲美 (2003)
そわそわ	気持ちが落ち着かない様子。何か気に懸かることがあって、心が平静でない様子・こと。	何か気をとられることがあって、落ち着かないようす。	何か気に取られて、落ち着かないさま。	気を取られることがあり…気持ちや動作に落ち着きのないさま。	何か気にかかることがあって落ち着かないようす。	態度が落ち着かない様子を表す(期待・興奮・心配などのため)。	気にかかることがあって落ち着かない気持ちでいる様子。また、落ち着かない気持ちが動作に表れて、浮き足立った動作をする様子を表す。
るんるん	(未収録)	(未収録)	(索引掲載のみ)	はずんだ…気持ちのよい喜びを表すさま。(俗語的表現。)	(未収録)	上機嫌で心理的に弾んでいる様子を表す。	浮き立つような、楽しい気分である様子。
ぞくぞく	①引き続いて、非常に寒けがするようす。… ②恐ろしさ・事の重大さ・気味の悪さ・恐さなどのために極度に心が緊張し、引き続いて、体が震えるようになる様子。 ③うれしさ・喜び・期待などのために、引き続いて、心が躍るように感じる様子。	①震えが襲ってくるような寒気を引き続いて感じるようす。 ②恐れ、気味悪さ、 <u>歡喜</u> 、 <u>期待</u> などのために、心身に震えがくるような、緊張や興奮が起こるようす。	①寒けを感じるさま。②体が震えたり背筋に寒けを感じたりするほど、緊張したり興奮したりするさま。恐怖、 <u>期待</u> 、 <u>喜び</u> 、 <u>感動</u> などを表す。	病気の熱で…身体が震えるさま。また、激しい緊張や恐怖などからおこることもある。	①震えがこみあげような寒けを引き続いて感じるようす。 ②恐怖や期待などで、気持ちが震えてくるような興奮や緊張を感じるようす。	全身に震えを感じる様子を表す。震えの原因は、悪寒、寒さ、恐怖、不快、 <u>期待</u> 、 <u>興味</u> 、 <u>快感</u> などがある。	①寒さや悪寒などで、体が震える様子。②恐ろしさなどによる極度の緊張のため、鳥肌が立つような感じで震える様子。③期待感や嬉しさで、震えるように心が騒ぐ様子。
ふわふわ	①極めてやわらかく、ふくらみ、弾力に富んでいる様子。②軽々と、浮いたり、浮き上がりたり、浮かび漂ったりする様子。③気持ち・行動などに、落ち着き・信念がなく、軽薄・浮薄である様子。	①軽やかで非常に柔らかくふくらんでいるようす。②物が飛んだり、浮かんだりして、軽く空中や水中に漂うようす。 ③軽薄で落ち着きのない気持ちのようす。また、そのような気持ちでする行動の様子。	(索引掲載のみ)	①うかされて…心が落ち着かずうわついたりさま。 ②軽やかに…軽いものが空中に浮かび漂うさま。	①軽く柔らかくふくらんでいるようす。②物が、空中や水中に軽やかに浮かんでいるようす。 ③軽薄で落ち着きのない気持ちや、そのような気持ちでする行為のようす。	①非常に軽くと柔らかいものがふくらんでいる様子を表す。 ②非常に軽いものが浮かび漂う様子を表す。 ③確固とした信念が存在しない様子を表す。	①やわらかくて適度に弾力に富んでいる様子。 ②軽やかに浮いて漂う様子。 ③言動が浮ついて落ち着かない様子。

表3の各項目の記述をよく観察してみると、「いそいそ、うきうき、ほくほく、わくわく、うはうは、さばさば、るんるん、ぞくぞく」の8語は、ほとんど全ての文献において、「喜び」を表すものとして取扱われていることが分かる<sup>(5)</sup>。

これに対して、「そわそわ」と「ふわふわ」については、「喜び」という類の記述が見られたのは共に一文献だけである。即ち、前者は文献⑦の「期待」、後者は文献⑤の「うかれて」、である。では、それぞれの例文を見よう。

- (1)花便りを聞くとそわそわするなんて日本人だね。(飛田・浅田2002)
- (2)表でボーイフレンドの声が聞こえると、娘はそわそわと出かけていった。(同上)
- (3)百万円の宝くじが当たって、あまりのうれしさにふわふわと天にも昇る気持ちになった。(尚学図書1991)

このように、各種の専門辞典における語釈を見る限り、この二つの語はかなり異色な存在であるかのように思われるが、上の用例から、やはりこれらを「喜び」の擬態語と考えるべきであろう。

## 2-4. 本稿の考察対象

以上、先行研究に挙げられた20の語をめぐって、その認定や取扱い方(即ち「喜び」を表す意味解釈の有無)について、かなりの紙幅を費やして検討してきた。前節で述べた理由から、本稿の考察対象を、「いそいそ、うきうき、ほくほく、わくわく、うはうは、さばさば、そわそわ、るんるん、ぞくぞく、ふわふわ」の10語とする<sup>(6)</sup>。

以下、これらのものの意味分類や相関関係、それぞれの用法および構文上の特徴などについて詳しく見ていきたい。なお、今回は主に各擬音語擬態語辞典から用例を採集したが、必要に応じて、朝日新聞(全文記事データベース)から若干の用例を補った。

## 3. 意味分類と相関関係

### 3-1. 意味特徴と性格

本稿で取扱う十の擬態語は、人間の「喜び」の感情・気持ちを表す点で共通性を持っているが、次の3点において大きな違いが見られる。

#### 3-1-1. 一義のものと多義的なもの

つまり、表3の語積を見て分かるように、「喜び」以外の意味用法(勿論、現代語の場合)を持つかどうか、いわば一義のものなのか多義的なものなのか、という点に基づいて考えれば、「喜び」の擬態語は、次の二つに分けられる。

A. 「喜び」の意味だけを表すもの(一義) :

○いそいそ、うきうき、わくわく、

うはうは、そわそわ、るんるん

B. 「喜び」の意を含む複数の意味を持つもの(多義) :

○ほくほく、さばさば、ぞくぞく、

ふわふわ

### 3-1-2. プラス的な意味だけのものとプラス・マイナス的な意味のもの

これも、表3における記述を通して容易に観察できるが、ここで言う「プラス的な意味」とは、即ち「喜ばしい・嬉しい・快い・楽しい様子(状態)」や「喜び・期待・楽しみがあること」といった、好ましい意味のことである。これに対して、「マイナス的な意味」とは、「恐ろしさ・恐さ・恐れ・恐怖・不快・心配などがある様子(状態)」「気にかかる様子」「軽薄・浮薄である様子」という、好ましくない意味を言う。

従って、「喜び」を表す擬態語のうち、「プラス的な意味だけのもの」として、「いそいそ、うきうき、ほくほく、わくわく、うはうは、さばさば、るんるん」、また、「プラス・マイナス的な意味のもの」として、「そわそわ、ぞくぞく、ふわふわ」、がそれぞれ挙げられよう。これについての詳しい検討は次の第4章に譲る。

### 3-1-3. 一般用語と俗語的表現

上記した10語は、「うはうは」と「るんるん」を除けば、みな口頭語(話し言葉)にも文章語(書き言葉)にも一般的に使われているものであるが、この2語だけは俗語的表現と考えられている。具体的に言うと、「うはうは」に関して、表3にもあったように、いずれの辞書においても、「あまり上品な表現ではない」「俗語的な表現」「やや品格に欠ける表現」「下品なニュアンスがあり、あまり高尚な喜びについては用いられない」などと説明されている。また、「るんるん」のほうは、「ここ四、五年のうちに定着した俗語的表現」(尚学図書1991)とされ、現行の擬音語擬態語専門辞書の多くにはこの語が収録されていないということにも裏付けられていると言えよう。

以上をまとめると、次の表4に示すことができる。

表4 「喜び」の擬態語の意味特徴

	一義か多義か		プラスの意味かマイナスの意味か		一般用語か俗語か	
	一義	多義	プラスのだけ	プラス・マイナス的	一般用語	俗語
いそいそ	○		○		○	
うきうき	○		○		○	
ほくほく		○	○		○	
わくわく	○		○		○	
うはうは	○		○			○
さばさば		○	○		○	
そわそわ	○			○	○	
るんるん	○		○			○
ぞくぞく		○		○	○	
ふわふわ		○		○	○	

表5 「喜び」の擬態語のイメージ——山田翼（2003）の整理

	いそいそ	うきうき	ほくほく	わくわく	うはうは	さばさば	そわそわ	るんるん	ぞくぞく	ふわふわ
喜ぶ	○	○	○	○	○			○	○	
快い		○		○			○		○	
爽快						○				
浮かれる		○		○			○			○
燥（ハシャ）ぐ		○	○	○			○			
期待する		○		○						
興奮				○					○	
落ち着かない							○			○
陽気		○		○		○				
意気込む	○	○								
急ぐ	○						○			
動のオノマトペ							○			○
その他	うきうき——心の春。わくわく——胸騒ぎ。うはうは——笑う；儲ける。さばさば——淡い。そわそわ——狼狽。ぞくぞく——気味が悪い；寒気；寒気立つ；戦慄；怯える；多数；沢山；益々；続発；群がる；陸続。ふわふわ——軽い；脆い；柔らかい；動じ易い；変わり易い；ふっくら；漂う；浮く；雲；霧。									

### 3-2. 意味内容

#### 一連想イメージ・場面性から

前節での考察を通して、ひとこと「喜び」を表す擬態語とは言うものの、中には意味内容上かなり異なったものが含まれていることが分かった。この節では、主に山口翼（2003）、荻阪（1986）及び有賀他（2001）の記述——連想イメージまたは使用場面の提示——に基づいて、「喜び」の擬態語の表す意味内容を

整理してみたい。

まず、山口翼（2003）において、「喜び」の擬態語はそれぞれどういうイメージを持っているのかを見てみよう（表5のゴシックの部分に注目）。

上の表を見て、「喜び」の意に属する6項目、即ち「喜ぶ」「快い」「爽快」「浮かれる」「燥ぐ」「期待する」のいずれを表せるか、を高い順から整理すると、「うきうき、わくわ

表6 「喜び」の擬態語による連想・イメージ——荻阪(1986)の整理

反応語	刺激語(「喜び」を表す擬態語)						
	イソイソ	ホクホク	ワクワク	サバサバ	ソワソワ	ゾクゾク	フワフワ
喜ぶ(喜び)		46 (11/35)	8 (0/8)				
うれしい	6 (0/6)		16 (4/12)				
楽しみ			47 (18/29)				
期待			106 (30/76)		10 (7/3)	10 (5/5)	
満足		11 (5/6)					
ドキドキ			8 (2/6)				
興奮						12 (7/5)	
胸			19 (6/13)				
デート	25 (0/25)				18 (6/12)		
その他	105 (40/65)	51 (21/30)	66 (28/38)	108 (53/55)	96 (46/50)	82 (47/35)	54 (23/31)
上記以外の各項目	イソイソ——出かける: 73 (14/59); 帰る: 20 (6/14); 逃げる: 16 (7/9); 急ぐ: 13 (6/7); 着物姿: 11 (3/8); 歩く: 6 (0/6)。ホクホク——いも: 41 (10/31); もうかる: 28 (15/13); 暖かい: 20 (7/13); 金持ち: 19 (9/10); 顔: 19 (12/7); 笑う: 10 (0/10); 金: 9 (2/7); ボーナス: 7 (3/4)。サバサバ——性格: 51 (27/24); さっぱり: 40 (16/24); あっさり: 36 (8/28); すっきり: 28 (8/20); さば: 6 (6/0)。ソワソワ——落ち着かない: 132 (39/93); 待つ: 9 (2/7); あせり: 6 (2/4)。ゾクゾク——寒気: 59 (49/10); 寒い: 33 (10/23); 背すじ: 17 (10/7); 悪寒: 13 (10/3); 風邪: 10 (7/3); スリル: 8 (6/2); 恐い: 7 (3/4); 背中: 6 (4/2); 続く: 6 (3/3)。フワフワ——浮く: 51 (19/32); 雲: 50 (19/31); 風船: 36 (14/22); 綿: 24 (6/18); 布団: 19 (5/14); とぶ: 15 (2/13); わたがし: 13 (3/10); 柔らかい: 12 (6/6)。						

く」(5項目), 「そわそわ」(3項目), 「ほくほく, ぞくぞく」(2項目), 「いそいそ, うはうは, さばさば, るんるん, ふわふわ」(1項目), となっている。また, 「さばさば, そわそわ, ふわふわ」の3語は, 一番目の「喜ぶ」には記入されていない, という点にも注目すべきであろう。なお, 「落ち着かない」という項目を見ると, 「そわそわ」と「ふわふわ」の二語だけが挙げられ, これは表3の関連記述と大きな隔りがあると言える<sup>(7)</sup>。

次に, 荻阪(1986)を見てみよう。荻阪(1986)は, 日本語の擬音語擬態語(刺激語数469語)からどんな連想(反応語)が頭に浮かんでくるのか, に関して, 関西圏大学生被験者約300名(男子100名, 女子190名)に対する調査に基づいてまとめたものである。それによると, 「喜び」の擬態語による連想・

イメージは表6のとおりである。表中の数字は, 合計(男/女), という意味である。なお, この調査には「うきうき, うはうは, るんるん」の3語は含まれていない。

表6のゴシックの部分, つまり「喜ぶ(喜び)」「うれしい」「楽しみ」「期待」の4項目を比較して見ると, 次のことが言える。①この四つの反応語にすべてかかわっているのは「わくわく」の1語だけであり, 一方, 「さばさば」と「ふわふわ」は, そのいずれにもかかわっていない。残りの「いそいそ, ほくほく, そわそわ, ぞくぞく」はともに一つだけの反応語にかかわっている。つまり, 「喜び」の意を表す反応語の数の多さから言うと, 「わくわく」のほうが断然トップに立っている。②反応語の項目別から見ると, 「期待」の刺激語が最も多く, つまり「わくわく, そわそわ, ぞくぞく」の3語である。これにつ

表7 「喜び」の擬態語と場面設定——有賀他（2001）の整理

	時間的な場面	動作的な場面	その他
いそいそ (12)	<～時> 1	<移動・出かける> 4 ; <仕度・作る> 6 ; <待つ> 1	
そわそわ (15)	<もうすぐ～(の時)> 2	<待つ> 6 ; <来る> 2	<～たくて> 2 ; <～て> 2 ; <～子供達> 1
うきうき (14)	<～時> 6 ; <～日> 7 ; <～夜> 1		
わくわく (18)	<～時> 15		<～ことになっている> 2 ; <～気持ち> 1
ぞくぞく (14)	<～時> 3 ; <～瞬間> 6		<～て> 2 ; <～た> 2 ; <(モノ)が> 1

いで、「喜ぶ」（「ほくほく、わくわく」と「うれしい」（「いそいそ、わくわく」）はともに2語で並んでいて、「楽しみ」の刺激語は「わくわく」だけである。③上記全4項目にわたるデータの詳細を見ると、「わくわく」のほうが被験者の6割を占めているのに対して、「ほくほく」はぐっと被験者の六分の一にまで下がり、残りの「いそいそ、そわそわ、ぞくぞく」はさらに極端に減り、いずれも僅か10人以下である、ということになる。④これらの刺激語（「喜び」の擬態語）から、「快い」や「爽快」「浮かれる」などの反応語が被験者のイメージに浮かんでこないということも大変興味深いことである。

最後に、有賀他（2001）の場面設定の内容について検討してみよう。有賀他（2001）に取り上げられた「喜び」の擬態語は、「いそいそ、うきうき、わくわく、そわそわ、ぞくぞく」の5語だけである（巻末の「番外編」として、「さばさば」を中心に補足説明が行われているが、使用場面に対する記述のまとめ方が違うので、ここでは対象から外す）。それぞれの具体的な場面の例示（【こんな場合】という項目）を整理してみると、次の面白い現象が見られる。つまり、「いそいそ」と「そわそわ」に対する説明は、「動作性」の意味合いが強く感じられ、一方、「うきう

き」「わくわく」「ぞくぞく」のほうは、「時間性」というところに説明の重点が置かれるように思われる。具体的には、表7のとおりである（中の数字は、「場面」の数、の意）。

言うまでもなく、有賀他（2001）の場面説明は「喜び」の擬態語への理解に大変示唆的なものと言えるが、紙幅の都合、代表例だけを短縮して示す。

【いそいそ】①<～時>…空港へ迎えに行く時。②<移動・出かける>初めてのデートの待ち合わせ場所に向う／…。③<仕度・作る>海外旅行のための荷作りをしている／…。④<待つ>結婚一年目のお祝いの用意をしながら夫の帰りを待つ

【うきうき】①<～時>楽しい予定が間近に迫っている時／…。②<～日>週末や連休の前の日／プロポーズされた日／…。③<～夜>お祭りの夜

【わくわく】①<～時>もらったプレゼントを開ける時／…。②<～ことになっている>つり好きの人が「名人」に絶好の穴場に連れて行ってもらえることになっている／…。③<～気持ち>久しぶりに家族そろって遊園地へ向かう途中の子供の気持ち

【そわそわ】①<もうすぐ～>交際中の男性から電話がくる約束となり、もうすぐ

表8 類語辞典に見る類義関係

文 献	類 義 関 係	備 考
藤 原 他 (1985)	浮き浮き、わくわく、そわそわ、ほくほく (⇒うかれる)	そわそわ (⇒あたふた) ; ふわふわ (⇒やわらかい)。
小 学 館 (2003)	浮き浮き、わくわく、いそいそ、ぞくぞく (⇒悲喜)	さばさば (⇒性格) ; そわそわ (⇒しぐさ) ; ふわふわ (⇒形状)。
類語研究会 (1991)	浮き浮きする、わくわくする、ほくほくする (⇒浮き浮きする)	このほか、「浮かれる、浮き立つ」もその下位語
柴田・山田 (2002)	①浮き浮き、わくわく、ぞくぞく(⇒たかぶる) ②いそいそ、ほくほく(⇒喜ぶ) ③浮き浮き、るんるん、ふわふわ(⇒浮かれる)	ふわふわ・ほくほく (⇒やわらかい) ; ぞくぞく (⇒おびえる／震える／寒い) ; そわそわ (⇒気にする／焦る) ; さばさば (⇒さばける／すがすがしい) ; いそいそ (⇒働く) ; ふわふわ (⇒漂う)。なお、「うはうは」は未収録。
大野・浜西 (1981)	①浮き浮き、わくわく、ぞくぞく (⇒心境・上機嫌) ②そわそわ、ふわふわ (⇒身振り・平静 [軽躁])	さばさば (⇒心境・愉快／性格・陽気) ; ふわふわ (⇒形状・擬態語 [様子] / 実質・硬軟 [軟らかい]) ; いそいそ (⇒態度・熱心) ; ぞくぞく (⇒刺激／冷温 [涼しい・冷たい・寒い]) ; ほくほく (⇒身振り／茫然 [欣然 (喜ぶさま)])。なお、「うはうは」と「るんるん」は未収録。
米 谷 (2001)	①いそいそ、うきうき、そわそわ ②わくわく、ぞくぞく	その他の語は未収録。
そ の 他 (擬音語擬態語辞典)	浅野鶴子 (1978) : いそいそ、うきうき、そわそわ。飛田・浅田 (2002) : いそいそ、うきうき、そわそわ、るんるん、わくわく。山口伸美 (2003) : うきうき、わくわく、ぞくぞく (③の意味)	

その時／…。②<待つ>合格発表の日、子供からの電話を待っている／…。③<来る>あこがれの女性が初めて自分の部屋を訪ねて来る／…。④<～たくて>(会議・授業中など)早くトイレに行きたくて／…。⑤<～て>参考人として取り調べを受けてしらをきり通していた男が、裏の事情を知っている顔見知りと呼ばれて来たのを見て／…。⑥<～子供達>父母参観の日、後で親たちが授業を見ている時の子供達

【ぞくぞく】①<～時>決勝戦が始まる直前、観客の熱気に包まれている時／…。②<～瞬間>初舞台の開演のベルが鳴った瞬間／…。③<～て>連続放火犯が現

場で人々が右往左往するのを見て／…。④<～た>無線で偶然とんでもない話を傍受してしまった／…。⑤<(モノ)が>南極の真っ暗な夜空を見上げていると、やがて目の前に巨大なオーロラが

### 3-3. 意味分類と相関関係

ところで、「喜び」を表す擬態語の意味分類と相関関係はどうなっているのだろうか。これにあたって、主な類語辞典と擬音語擬態語辞典を調べてみた。そして表8のような結果を得た(括弧の中の記号"⇒"は、前の語の上位語、という意味である)。

上の表から、意味分類に関しても相関関係(類義関係)に関しても、各文献の記述が随分違っている、ということが言える。従って、

これらのものの共通点や相違点について、もっと幅広く深く考えなければならない。

#### 4. 用法上の共通点・相違点

本章では、主に次の四点をめぐって論を進めていきたい。

##### 4-1. 事柄内容のプラス・マイナス性

既に3-1で触れたように、「喜び」を表す擬態語は、その事柄内容——プラス的な意味の原因・理由なのか、マイナス的な意味の原因・理由なのか——の相違から、「プラス的な意味だけのもの」と「プラス・マイナス的な意味のもの」、の二つに大別できる。そして、前者には、「いそいそ、うきうき、ほくほく、わくわく、うはうは、さばさば、るんるん」、また、後者には、「そわそわ、ぞくぞく、ふわふわ」、を挙げている。では、それぞれの用例を通して具体的に見てみよう。まず、「プラス的な意味だけのもの」の場合である。

(4) 子供の入学式で母親も晴れ着を着ていそいそしている。 (浅野1978)

(5) 明日退院すると言うので彼女はウキウキしている。 (アンドルー1990)

(6) 思ったよりボーナスが多かったので、みんなほくほくしている。 (浅野1978)

(7) 彼女にもうすぐ会えると思うと、期待とうれしさで胸がわくわくする。

(尾野1984)

(8) 新製品を売り出したら大当たりで、業者はうはうは。 (阿刀田・星野1993)

(9) 契約の話はとんとん拍子に進み、社長はさばさばした表情をしている。

(尾野1984)

(10) 「ご機嫌ね、いいことあったの」「宝くじで一万円当たっちゃったの。ルンルンよ。」 (飛田・浅田2002)

ほかにもたくさんの用例があるが、紙幅の関係で、これ以外の例文は関連する部分だけ

を抜き出して記しておく。

(11) いそいそ——娘の迎え(に) / デート / ボーナス日 / 初めての帰省 / 初めてのヨーロッパ旅行 / 久しぶりの外食と映画鑑賞 / 久しぶりの家族旅行 / 遠い異郷から帰って来た / 入試の合格者発表の当日、掲示板に自分の名を見いだした / 初孫(ウイモ<sup>9</sup>)がやってくる / …

(12) うきうき——デート / プロポーズ / 連休 / 当選確実 / 初めての海外旅行 / 剣道の朝げい古に / 海に行く / あこがれのマナスルに旅立つ / 家族連れで海水浴に出かける / 遊園地の回転木馬に乗る / 遊園地の観覧車のゴンドラに乗る / (子供が) 近くのパン屋へお使いに行く / 開店の当日、粗品進呈のちらしを片手に / やっとわが家が手にはいった / …

(13) ほくほく——期待以上のボーナス / 南九州への船旅で / いただきたかった賞 / 予想以上の売り上げ(にデパートが) / 予想外の大雪(にスキー場が) / 予想以上の客の入り(で劇場の経営者が) / 品切れ続出(に店主が) / 果実の出来が上々(で農家の人が) / カーフェリー人気(に船会社が) / お年玉がもらえる / 息子が一番で卒業した / 息子が一流の大学に入った / …

(14) わくわく——合格の発表 / 彼女からの手紙 / 婚約者 / サラリーマン時代に味わえなかった創作の喜びに / 楽屋に行く / デートを申し込んで返事を待つ / 一年ぶりにガールフレンドに会える / 長年あこがれていた人に会える / もうすぐ毛皮のコートが買える / もうすぐ夏休みだ / 町にベッカムが来る / 大リーグ中継を見る / 満員の観客が開演を待っている / (子供が) クリスマスのプレゼント(お年玉袋)を開けにかかる / …

(15) うはうは——親父の遺産 / 美人の女房 / 連休 / 予期せぬ大もうけ(に業者が) / 新製品を売り出したら大当たり(で業者が)

／都庁の移転で地価がうなぎのぼり(地主が)／株で当てる／温泉でごちそうづくめの接待。芸者まで来る／美人が乗って来た／40キロあたりからもう勝ったと思っ／…

- (16) さばさば——全力を出し切った(から)／精一杯やった(から)／思い切りやった(から)／言いたい事を全部言った(から)／借金を全部返して／入院中伸び放題だった髭を剃り落として／いやなことは全部その場で忘れて、後くされを残さない(から)／…

- (17) るんるん——合コンの席(へ)／デート(に)／狭いアパートからマンションに引越して／…

次は「プラス・マイナス的な意味のもの」の場合である。a文は「プラス的な意味」の例であり、b文は「マイナス的な意味」の例である。<sup>(10)</sup>

- (18) a. はじめてのデートだというので、彼は朝からそわそわしている。

(浅野1978)

- b. 遅刻しそうでそわそわしたが、タクシーに乗ったらすべり込みセーフだった。(尾野1984)

- (19) a. くじが当たって、10万ドルの賞金が貰えるので、嬉しさをぞくぞくする。

(アンドルー1990)

- b. 落とし主はまさおになってぞくぞく。(天沼1974)

- (20) a. 百万円の宝くじが当たって、あまりのうれしさにふわふわと天にも昇る気持ちになった。(尚学図書1991)

- b. (…) 一方通行だったり、すれ違ったり、難解でふわふわしていたり。会議の言葉はやっかいだ。…

(朝日新聞2002/9/11・朝刊6面)

ほかの例文における関連部分を抜き出してまとめると次のようである。

- (21) a. そわそわ——初めてのデート／デー

トの約束(の時間)／正式の婚約発表／連休／入試を控える／知らせが来る／ガールフレンドが現われる(のを待つ)／予定がある／花便りを聞く／夏祭りのシーズンがやってきた／恋の季節(わが家の猫)／…

- b. そわそわ——事件の日／空港のきびしい検問(乗用車のドライバー)／暗いトンネル内で一時停車(に)／捕鯨禁止(業者)／終バスに間に合うかどうか／叔父さんはいつも長っ尻で／寝首をかかれることを予期して／昇進の連絡がない／…

- (22) a. ぞくぞく——優勝も夢ではない決勝戦／彼女の美しさ(に)／ドラマ的な面白さ／映画が面白くて／サーカスの幕あきを待つ／ただで日本旅行ができる／予期もしなかった遺産が転がり込んできた／札束を拾った(掘り当てた)／…

- b. ぞくぞく——得体の知れない恐怖(で)／気味悪さで／夜のスラム街を通り抜ける時／ピストルで脅かされ小切手にサインさせられた時／蛇(ミミズ・ナメクジ)を見た／交通事故の惨状を見たとたん／…

- (23) a. ふわふわ——春の陽気に浮かれて(新宿周辺を歩いている)／フジの花が満開している公園を歩いて(朝日新聞1989/5/10・朝刊)／憧れの舞台を踏んだ(朝日新聞1988/7/10・朝刊)／…

- b. ふわふわ——金メダルをとって帰国したときも頭の中は整理できていなくて(朝日新聞2003/11/28・夕刊21面)

#### 4-2. 原因・理由としての事柄のテンス性

次に、「喜び」の気持ちを引き起こす・生じさせる要件、即ちその原因・理由としての事柄のテンス性について考えてみよう。ここでは、「喜び」の原因・理由を表す部分を前件と呼び、「喜び」の気持ちを表す部分(即

ち「喜び」の擬態語を含む動詞句など）を後件と呼ぶ。すると、前件と後件——「喜び」の原因・理由と「喜び」の気持ちの生起——の関係は、テンス性において、次のような違いが見られる。<sup>(11)</sup>

①前件（＝これからの予定・これから起こること）⇒ 後件

②前件（＝既に起こったこと・実現したこと）⇒ 後件

そして、これに基づいて、「喜び」を表す擬態語のそれぞれの使用状況を見比べると、概ね次の三つのパターンに分けて考えることができよう。

I. 前件が、基本的には、「これからの予定・これから起こること」を表す：  
いそいそ、わくわく、そわそわ

II. 前件が、基本的には、「既に起こったこと・実現したこと」を表す：うはうは、さばさば、ぞくぞく、るんるん、ほくほく、ふわふわ

III. 前件の、IとIIの使用上の偏りはさほど大きくない：うきうき

以下、便宜上、I、II、IIIをそれぞれ「未来型」「既出型」「中間型」と名づけ、例文による検討を通して説明を加えよう。

まず、「未来型」の用例である。前節に挙げた(4)（「いそいそ」）、(7)（「わくわく」）、(18a)（「そわそわ」）のほか、同じ用法の例が多く見られる。

(24) 久しぶりに食事を外でして、映画を見ようと誘うと、妻はいそいそと支度をはじめた。 (浅野1978)

(25) 今日は初孫(ウイマゴ)がやってくるので、妻は朝からいそいそとしている。 (飛田・浅田2002)

(26) もうすぐ夏休みだと思うと胸がわくわくする。 (浅野1978)

(27) 一年ぶりにガールフレンドに会えるので、胸がワクワクする。 (アンドルー1990)

(28) 彼はガールフレンドが現われるのをそわ

そわして待っていた。 (尾野1984)

(29) 成田空港で、一台一台の乗用車がきびしい検問にあつて、ドライバーはみなそわそわ落ち着きがない。 (尾野1984)

もつとも、「いそいそ」には、次のような、前件が「既に起こったこと・実現したこと」という用法（波線部）の例も見られるが、ごくまれなものと言えよう。

(30) 入試の合格者発表の当日、掲示板に自分の名を見いだした私は、いそいそしながら、公衆電話に飛び込んで電話のダイヤルを回した。 (天沼1974)

また、「わくわく」や「そわそわ」にも、

(31) 秋の訪れとともに結婚ラッシュがやってきた。胸がわくわくの婚約者どうし、これでやれやれと…。 (天沼1974)

(32) 夏祭りのシーズンがやってきた。江戸っ子たちはそわそわと落ちつかない。 (天沼1974)

というような例があつて、波線部だけを見る限り、まさに「既に起こったこと・実現したこと」と思われるが、全体の文脈からすれば、やはり「これからの予定・これから起こること」の用法と考えるべきであろう。なぜならば、例(31)は、「結婚ラッシュはやってきたが、(その)婚約者どうしの結婚式はこれからののだ。よってわくわくしている」、ということが想定できるからである。例(32)についても同様なことが言える。<sup>(12)</sup>

次に、「既出型」の場合である。前節の例(8)（「うはうは」）、(9)（「さばさば」）、(20a)（「ふわふわ」）、(19a)（「ぞくぞく」）、(10)（「るんるん」）、(6)（「ほくほく」）のほか、それぞれの例をもう少し挙げよう。  
(33) あいつ、株で当ててうはうはしてるところさ。 (飛田・浅田2002)

(34) 次の階でもすっごい美人が乗って来た。うはうは喜びをこらえて二人の美人を見ていると……。 (浅野1978)

(35) 言いたいことを洗いざらい言ってやって、

- さばさばした。(浅野1978)
- (36) いやなことは全部その場で忘れて、後く  
さを残さないというからさばさばして  
いるよ。(阿刀田・星野1993)
- (37) 春の陽気に浮かれてふわふわ歩いていた  
 ら、金をすられてしまった。  
 (阿刀田・星野1993)
- (38) あこがれの舞台を踏んだ感想は「思った  
 よりきれい」「ふわふわして気持ちいい」  
 とさまざま。  
 (朝日新聞1988/7/10・朝刊)
- (39) 拾ってあけてみたら札束だ。びっくりし  
 て背中がぞくぞくしやがった。  
 (浅野1978)
- (40) その鍾乳洞にはいと気味悪さでぞくぞ  
くしてくる。(阿刀田・星野1993)
- (41) 「狭いアパートからマンションに引越  
 して、すっかりるんるん気分になった」  
 (尚学図書1991)
- (42) 予想外の大雪にスキー場はほくほく喜ん  
 でいる。(飛田・浅田2002)
- (43) 久しぶりで「最終日の当日売りが3500枚  
 出ました」とほくほくした。(天沼1974)  
 そして、「既出型」の中でも、例えば「ぞ  
 くぞく、るんるん、ほくほく」の用例には、  
 一部でありながら、「これからの予定・これ  
 から起こること」に属するものがある。
- (44) (サッカー) この調子なら優勝も夢じゃ  
 ないよ。あしたの日韩戦はぞくぞくする  
 ねえ。(飛田・浅田2002)
- (45) 姉貴はるんるんとデートに出かけていっ  
 た。(飛田・浅田2002)
- (46) 今日はおじさんたちからお年玉がもらえ  
 ると思って、ほくほくしている。  
 (浅野1978)

残りの「うきうき」は、天沼(1974)など  
 にもあったように、「うれしいこと・よろこ  
 ばしいこと・楽しみなことなどがあった」、  
 即ち「既出型」の用法と、「将来の好ましい  
 ことへの期待」がある、即ち「未来型」の用

法を合わせ持つものなので、「中間型」のも  
 のと考えるべきであろう<sup>(13)</sup>。言うまでもなく、  
 両方の例は共に多く見られる。次の例(47)  
 (48)及び(5)はI(「未来型」)の用法で  
 あり、例(49)~(51)はII(「既出型」)の用法  
 である。

- (47) 念願かなってのはじめて彼女とデート。心  
 がうきうきしてネクタイを結ぶ間にも口  
 笛が出る。(浅野1978)
- (48) 初めての海外旅行で、妻はウキウキしな  
がら空港に向った。(アンドルー1990)
- (49) これでやっとわが家が手にはいったと家  
 族一同うきうき。(天沼1974)
- (50) 当選確実と聞いて、運動員の末端までう  
きうきとした表情です。(浅野1978)
- (51) 彼のプロポーズに、彼女は心がうきうき  
している。(尾野1984)

#### 4-3. 主語(動作主)と人称性

まず、主語の内訳・語彙の特徴について考  
 える。今回の考察対象の範囲では、各例文の  
 主語に現われた語句の詳細を見てみると、大  
 体次のようになる。

<いそいそ>: 妻/母(母親)/むすこ/子供  
 /姉貴/お嬢さん/隣の夫婦/私/君/  
 彼/K氏/その子/將軍家/遠い異郷か  
 ら帰って来た伊太利人等/…

<うきうき>: 妻/家族一同/私(私など)/  
 彼女/幼女/この子/子供たち/若者や  
 家族連れ/登山隊/運動員/地元住民、  
 都・区の関係者/大勢の人/日本民族/…

<ほくほく>: 両親/おじいさん/おやじ/  
 私/彼/滝十郎/子供たち/クリ拾いの  
 子供たち/みんな/店主/農家の人/劇  
 場の経営者/社員/協会役員/重役以下  
 /地主たち/銀行/デパート/船会社/  
 出版社/スキー場/水連事務局/同大/  
 Nカーフェリー/…

<わくわく>: 私/僕/彼/その男/子供た  
 ち/婚約者どうし/サラリーマン/モス  
 クワっ子/満員の観客/球場売店でアル

- バイトをしている女子学生／…  
 <うはうは>：私／あいつ／同級生の金めもの／おじさんたち／業者／地主／旅館／国鉄／証券会社をはじめ、兜町／岡山／…  
 <さばさば>：父／大家のおやじさん／あのおやじさん／中婆さん／あの人／私／彼／(その人)自分／女性／女子マネージャー／監督／T監督／Hさん／社長／…  
 <そわそわ>：①妻／うちの子／娘／花婿／私／彼／桃子／Yさん／この子／あの男／小学2年のB君／元議員／武将／江戸っ子たち／生徒／ドライバー／若者／OL／業者／日本人／…；②わが家の雄猫／うちの雌猫  
 <るんるん>：姉貴／私／…  
 <ぞくぞく>：私／彼／落とし主／子供たち／…  
 <ふわふわ>：私／君／彼／田中／若者たち／…

上記した主語の内容構成から、次のことが言えよう。①これらの語は、人間の「喜び」の気持ちを表すのが基本なので、個人または集団性名詞が文の主語を担うのが一般的である。②主語に「身内関係」の名詞が多く出たのは、「いそいそ、うきうき、ほくほく、そわそわ」の四つである。③主語になる名詞の広範さにも多少の違いが見られる。つまり、「るんるん、ぞくぞく、ふわふわ」の三つは、それ以外の語と比べて、文の主語に現れる名詞の数(異なり語数)が比較的少ないということである。④「ほくほく」と「うはうは」の二つは、人名(個人・集団)のほか、業者や職場の名前なども主語に現れるのが特徴である。⑤人間だけでなく、動物に対する描写にも使えるのは「そわそわ」だけである(例：「恋の季節。わが家の雄猫もそわそわ 落ち着きがなくなる。」浅野1978)。

次に、主語の人称性について考えてみよう。ここでは、第一人称と第三人称だけを対象に

する。総じて言えば、次の二つに大別できると思う。つまり、

- ア. 文の主語は第三人称が基本的である(他人)：いそいそ、そわそわ、  
 イ. 主語には三人称のほか、一人称も多用される(他人/本人)：うきうき、わくわく、ほくほく、うはうは、さばさば、るんるん、ぞくぞく、ふわふわ  
 アの「いそいそ」と「そわそわ」の用例は、それぞれ(4)(24)(25)と(18)(28)(29)に示されるとおりであるが、注目すべきなのは、下記のような第一人称(私)が主語になる例である。<sup>(15)</sup>  
 (52)入試の合格者発表の当日、掲示板に自分の名を見いだした私は、いそいそしながら、公衆電話に飛び込んで電話のダイヤルを回した。(=例30)  
 (53)あきら叔父さんはいつも長っ尻で、用のある私はそわそわしていた。(尾野1984)  
 イに属する各語の例は、「うきうき」(5)(47)～(51)、「ほくほく」(6)(42)(43)(46)、「わくわく」(7)(26)(27)、「うはうは」(8)(33)(34)、「さばさば」(9)(35)(36)、「るんるん」(10)(41)(45)、「ぞくぞく」(19)(39)(40)(44)、「ふわふわ」(20)(37)(38)、となっているが、それ以外の第一人称または第三人称の例文を若干補おう。  
 (54)鏡の中に写る私は、けっこう美しくみえる。そしてうきうきする心を楽しんでいる。(天沼1974)  
 (55)「…いただきましたかった賞なので、ほくほくしております」低いアルト、"折り目正しい"。(天沼1974)  
 (56)彼女からの手紙。僕は胸をわくわくときめかせて封を切った。(阿刀田・星野1993)  
 (57)「ただ、40キロあたりからもう勝ったと思つて気分がウハウハに」(山口仲美2003)  
 (58)満員の観客はわくわくして開演を待つて

表9 感覚表出の異同

	い そ い そ	う き う き	ほ く ほ く	わ く わ く	う は う は	さ ば さ ば	そ わ そ わ	る ん る ん	ぞ く ぞ く	ふ わ ふ わ
喜び	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
期待感	○	○	○	○			○		○	
不安感 (心配)							○		○	○
落ち着かない様子	○						○			○

いるようだ。(阿刀田・星野1993)  
 (59)子供たちは興奮でぞくぞくしながら、眼  
 を輝かせてサーカスの幕あきを待つ。

(浅野1978)

(60)彼は落ち着きがなく、フワフワしている。  
 (アンドルー1990)

もっとも、イの中では、「わくわく」「ぞくぞく」及び「るんるん」の三つは、第一人称主語の比率が相当高いということが集めた用例から明らかになった。<sup>(6)</sup>一方、例(61)(62)のような、人称不特定(不明記)の文脈においては、「ぞくぞく」と「ふわふわ」の使用率が比較的高いということが言えよう。

(61)億という遺産が転がりこんでくりゃあ、  
ぞくぞくするよね。(浅野1978)

(62)ふわふわした気持ちでは難民救助はできない。  
 (飛田・浅田2002)

#### 4-4. 感覚表出について

4-1では、「喜び」の擬態語のプラス・マイナス性について検討した。その延長として、ここではこれらの語の、感覚表出における相違点を明確にしておきたい。具体的には、「期待感」や「不安感」「落ち着かない様子」の有無、の三点にしぼって考える。結論を簡潔にまとめると、表9のとおりである。

残りの紙幅があまりないので、それぞれの

用例を一括して取り上げるが、既に前に掲げた例文は、重複を避けるため、番号で示すことにする。まず「期待感」のあるものの例を並べる順で挙げると、(63)(5)(64)(7)(1)(44)などのである。次の「不安感」のあるものの例は、(65)(66)及び(20b)などがそれである。また、「落ち着かない様子」が感じられるものの例は、(67)~(69)のとおりである。

(63)幼稚園を待ち望んで、その子は入園式の朝制服を着ていそいそしていた。

(尾野1984)

(64)もうすぐ両親からお年玉がもらえらると思っ  
 て、子供たちはほくほくして、この  
 ところはしゃぎどおしだ。(尾野1984)

(65)それでも暗いトンネル内で一時停車に  
 「まだ余震があるのかしら」とそわそわ  
するOLもいた。(天沼1974)

(66)夜のスラム街を通り抜ける時は、いつも  
 得体の知れない恐怖でゾクゾクする。

(アンドルー1990)

(67)「将軍家もいそいそと落ちつかぬ様子  
 で、宋へ御出発前にどうしても見て置か  
 なければならぬ御政務は、片端から精出  
 して御覧になって」(山口仲美2003)

(68)この子は教室でもそわそわ落ち着きがな

い。 (飛田・浅田2002)  
 (69)彼は落ち着きがなく、フワフワしている。  
 (アンドルー1990)

## 5. 構文的特徴

ここでは、今回集めた用例の使用状況に基づいて、「喜び」を表す擬態語の共起関係や文法的な働きについて分析を加える。

### 5-1. 共起関係

#### 5-1-1. 同義語との併用

本稿の考察対象である「喜び」の擬態語は、「喜び」という類の言葉との共起状況から見ると、かなりの違いがあることが分かる。詳しく言えば、「うはうは、わくわく、ほくほく、ぞくぞく、ふわふわ」には、その用例が見当たり、特に「うはうは」と「わくわく」のほうが顕著に見える、ということである。例えば、「うはうは／ほくほく喜ぶ」「うはうはと大喜び」「うはうは喜びをこらえる」「喜びにわくわくする」「嬉しきでぞくぞく／わくわくする」「嬉しさにふわふわと」、など。

#### 5-1-2. 動詞述語

ここでは、動詞をさらに、移動性動詞、動作性動詞、状態性動詞の三つに分けて、「喜び」の擬態語との共起状況を考察する。以下、それぞれの使用例を短縮して示しておく。まず、移動性動詞の場合である。「うきうき(と)出る／出かける／出発する／旅立つ」「いそいそ／そわそわ／るるん(と)出かけていく」

「いそいそ／うきうき(と・しながら)向かう」「いそいそ／うきうき／そわそわ／わくわく(と)行く」「いそいそ／ふわふわ(と)歩く／歩き回る」「そわそわ(と)動き回る／外出」「いそいそ(と)登校する／出勤」「ほくほくして退社していく」「るるん気分帰る」、など。

次は、動作性動詞の例である。「いそいそ(と)支度をする／始める」「うきうき／そわそわ(と・して)乗る」「さばさば(と)教える」「うきうき／わくわく(して)封を切る」「そわそわ(と・して)見る／よそ見する」「わくわく(プレゼントを)開けにかかる」「いそいそとして小学校の門をくぐる」「いそいそしながら電話のダイヤルを回す」「ほくほくしながら受話器を奪い返す」、など。

最後に、状態性動詞の例である。「そわそわ／わくわく／ぞくぞく(して・しながら)待つ」「さばさば／ほくほく／うはうは(と)笑う／笑みがこぼれる／笑いがとまらない」「わくわく／うきうき心おどる／心が弾む」「ふわふわ(と)生きる／浮つく」「るるん歓談する」「さばさば(と)語る／言う／意思を表わす」「わくわく(と)胸を躍らせる／胸をときめかせる」「うはうはもうかる」「そわそわ(…を)気にする」、など。

以上をまとめると、表10のように示すことができる。

表10 述語動詞との共起状況

	いそいそ	うきうき	ほくほく	わくわく	うはうは	さばさば	そわそわ	るるん	ぞくぞく	ふわふわ
移動性動詞	○	○	○	○			○	○		○
動作性動詞	○	○	○	○		○	○			
状態性動詞		○	○	○	○	○	○	○	○	○

### 5-1-3. 形容詞述語

今回の調査では、形容詞(及び形容動詞)述語と共起関係を持つのは「さばさば」「ふわふわ」の2語だけである。つまり、「借金を全部返して…さばさばと気持ちよい」「(憧れの舞台を踏んだ感想は) ふわふわして気持ちいい」。なお、「ぞくぞく」は、「これからの土俵がぞくぞくするほど楽しい」「ぞくぞくしちゃうほど生肉が好き」のように、「～ほど」をはさんで形容詞と共起する例が見られる。

### 5-1-4. ぼかし表現

ここで言う「ぼかし表現」とは、「～ようだ」「～(し)そうだ」のようないわゆる助動詞や、「なんだか」「なんとなく」などのような語句をさす。前者と共起するものとして、「わくわく、ぞくぞく、いそいそ」(例(70)～(73))、また、後者と共起するものとして、「わくわく、うきうき、そわそわ、ふわふわ」(例(74)～(78))、などが挙げられる。では、それぞれの例を見てみよう。

(70) 振り返ってみますといろいろありました。

わくわくするようなこと、ぞーとする  
ようなこと、赤面するようなこと、…。

(天沼1974)

(71) 「次はどうなるんだろうっていうゾクゾク  
するようなドラマ的な面白さ」

(山口2003)

(72) 明治、大正時代の古い紙幣——といえ  
ば古銭マニアがぞくぞくしそうだが、これ  
はにせの古紙幣がぞくぞくという話。

(天沼1974)

(73) 「反(カへ)ってお嬢さんが極って怡々  
(イソイソ)してあるやうだった」

(尚学図書1991)

(74) 緑がもえています。なんだか心がうきう  
きする季節です。(天沼1974)

(75) 大リーグ中継を見ると何だかわくわくし  
てくる。(飛田・浅田2002)

(76) 花咲き鳥歌い……、春はなんとなくうき

うきする季節です。(浅野1978)

(77) うちの子は入試を控えて、なんとなくソ  
ワソワしている。(アンドルー1990)

(78) なんとなくふわふわした関係。優柔不断  
といえばその通りだし、現実に向き合う  
ことを避けているといえばそうなのかも  
しれない。(朝日新聞2000/11/6・夕刊)

### 5-1-5. 時間的表現

時間的表現と共起するものの内、特に「いそいそ」「そわそわ」及び「うきうき」が注目すべきである。比較的多用されるパターンとして、次のようなものが挙げられる。「初めて(の…で)——いそいそ、そわそわ、うきうき」「朝から——そわそわ、いそいそ」「久しぶりに——いそいそ」「毎朝——いそいそ」「一晩中——そわそわ」「授業中——そわそわ」、など。このほか、「いそいそ、うきうき、ほくほく、わくわく、ぞくぞく」の5語は、「～しながら」(同時進行)の形で用いられることが多いようである。一方、「そわそわ」は、「花便りを聞くとそわそわする」のように、「……とそわそわする」(「習慣・反復」)の言い方が多く見られる。なお、「そわそわ」や「ぞくぞく」の用例に見られる、アスペクト的な共起関係にも注意を払う必要がある。「8時ごろになると腰がそわそわしてくる」「40歳になったら…、もうそわそわ始める」「得体の知れない恐怖でぞくぞくしてくる」、など。

### 5-1-6. 身体・心理関係語彙

項目別に整理した結果、次のとおりである。

<身体>「身体がぞくぞくする」

<背中>「背中がぞくぞくする」

<胸>「胸がわくわくする」(「わくわくする胸」)「わくわく(と)胸をおどらせる」  
「胸がそわそわしてくる」

<腰>「腰がそわそわしてくる」

<顔>「さばさばした顔」「ほくほく顔」

<表情>「うきうき／さばさば(と)した表情」

<心>「心がうきうきする」(「うきうきす

る心)「うきうき(と)心が弾む」「わくわく(と)心おどる」

<気持ち>「そわそわした気持ち」

<気分>「うきうき／うはうは／さばさば／ふわふわした気分」(「気分がうはうはに)」「るるん気分」

<感じ>「ふわふわした感じ」

<口調>「さばさばした口調」

<その他>「面白くてぞくぞくする」「興奮でぞくぞくする」

### 5-1-7. 人名詞の単・複数

今回の調査結果に限って言うならば、「喜び」の擬態語と人名詞(人間を表す全ての名詞)との共起関係は、きれいに真二つに分かれているのが面白い現象である。具体的に言うと、単数・個名詞としか共起しない「いそいそ・さばさば・るるん・ぞくぞく・ふわふわ」と違って、「うきうき、ほくほく、わくわく、うはうは、そわそわ」の五つは、単数・個名詞だけでなく、複数・集団名詞とも相性よく共起するのである。それぞれの例を簡単に示しておく。「家族一同(が)うきうき」「うきうきした若者や家族連れ」「みんな／子供たちはほくほくしている」「子供たち／満員の観客はわくわく(する)」「おじさんたちはうはうはと大喜び」「江戸っ子たちはそわそわと落ちつかない」など。

### 5-1-8. 「たら」形

「たら」形と共起して、つまり「…たら…」(確定・仮定)の構文に現れたのは「うはうは、そわそわ、ぞくぞく」の三つである。それぞれの例文は次のようである。

(79)「同級生の金めのものは、手当たり次第パクってたね。MD 見つけたらウハウハ」(山口仲美2003)

(80)40歳になったら、定年まであと15年ということで、もうそわそわ始める。(天沼1974)

(81)何億という札束を掘り当てたりしたら、やっぱりぞくぞくとくるだろうよ。(阿

刀田・星野1993)

### 5-1-9. 「～しないで」

否定の「しないで」と一緒に用いられるものに、「うきうき、ふわふわ」の用例があった。

(82)「健康が思はしくないからあまり浮き浮きしないで物思に沈んで居たに違いない」(国木田独歩「忘れえぬ人びと」尚学図書(1991))

(83)(道楽息子に)いつまでもふわふわしないで、ちゃんと勤めに行きなさい。(飛田・浅田2002)

### 5-1-10. その他

以上のほか、「～のN」や「～する／したN」などの連体修飾構造においても、若干の共起上の相違が見られる。前者は、「胸がわくわくの婚約者」「ほくほくの協会役員／出版社」「うはうはの岡山／連休／一日」「そわそわの元議員」など、後者は「うきうきする季節／春」「さばさばした関係／こと」「ぞくぞくする話」など、である。

### 5-2. 文法的働き——文の成分

最後に、「喜び」の擬態語が文中でどんな文法的働きを果たすかについて考える。伝統的な品詞分類において、擬態語は副詞の一部とされるため、当然ながら連用修飾成分になるのが基本的な用法だと考えられるが、これらの多くは「～する」の形を有し、よって、述語や連体修飾語などの成分にも多用されているので、「多品詞性」をもつものと考えるのが妥当であろう(詳しくは、兪(1999)を参照)。言うまでもなく、「喜び」を表す擬態語もその中の一部であり、従って、連用修飾用法のほか、述語用法や連体修飾用法などをも持ち得るのである。さらに、「うはうは」「そわそわ」は、「が・は・も」などの助詞の前に現れる、いわゆる名詞的用法の例も見られる。残りのスペースがほとんどないので、用例検討の結果だけをまとめておく。表11のとおりである。

要するに、「喜び」の擬態語は、共に多種多様な形で、多くの成分を担うことができる。本章では、「喜び」の擬態語の構文的特徴をめぐって、大ざっぱに検討してみたが、こ

表11 「喜び」の擬態語の文法用法

	連用修飾用法	述 語 用 法	連体修飾用法
い そ い そ	①～(と)→V;②～として→V;③～しながら→V	①～する;②～(と)している	
う き う き	①～と→V;②～して→V;③～しながら→V;④～しないで…	①～している;②～Φ	①～するN;②～(と)したN;③～9日間
ほ く ほ く	①～(と)→V;②～して→V;③～しながら→V	①～する/～した;②～している/た;③～だ;④～Φ	①～な(のは);②～のN;③～もの;④～顔
わ く わ く	①～(と)→V;②～して→V;③～しながら→V	①～する;②～してくる;③～Φ	①～するN;②～してくるN;③～するようなN;④(胸が)～のN
う は う は	①～(と)→V;②(気分が)～に	①～だ;②～Φ	①～しているN;②～のN;③～組
さ ば さ ば	①～(と)→V;②～して→V;③～(と)→A	①～した;②～している/た;③～Φ	①～しているN;②～(と)したN
そ わ そ わ	①～(と)→V;②～して→V;③～してきて→V	①～する/した;②～している/た;③～してくる	①～するN;②～したN;③～のN;④～国会/一浪
る ん る ん	①～(と)→V	①～Φ	①～気分
ぞ く ぞ く	①～しながら→V;②～→A;③～するほど→A	①～する/した;②～している;③～してしまう;④～するようだ;⑤～しそうだ;⑥～してくる;⑦～となる;⑧～とくる/きた;⑨～Φ	①～するN;②～するようなN;③～とくるようなN
ふ わ ふ わ	①～(と)→V;②～して→V;③～して→A;③～しないで…	①～している/た	①～したN
名 詞 的 用 法	①うはうはも(当然だ);②そわそわが(続く)		

これらの語が文中で担う各成分の内訳や使用分布、さらには他の成分との相関関係などについて、もっと広い範囲の用例調査を通して考察を深めていかなければならない。

## 6. 今後の課題

以上、A B A B型の「喜び」の擬態語を対象にして、その意味分類や相関関係、用法および構文の特徴などについて詳しく検討してきた。本稿の分析を通して、これらのものの意味用法・構文上の共通点と相違点が随分明らかになったと思う。もっとも、本稿は、主に現行の擬音語擬態語辞典に載せられた用例に基づいて論を進めてきたものなので、本稿で得た結論の妥当性・的確性については、もっと広い範囲での用例調査と細かい分析を行う必要がある。

さらに、日本語教育の立場からすれば、本稿で取り上げたような類義関係にある語群同士の使い分けについての詳しい分析は、外国人日本語学習者にとって大変重要であり且つ欠かせない作業であるが、これ以上論ずる余裕がないので、すべて今後の課題とする。

### 【注】

- (1) 金田一（1978）の説明によれば、本稿で取り扱うものはみな「人間の心の状態を表す」ものなので、「擬態語」より「擬情語」という言い方の方が厳密であるかのように思われるが、ここでは従来の広義的な概念を使っている。
- (2) 但し、「ぞくぞく」「ほくほく」など、一部の「喜び」を表す擬態語は、それ以外の意味用法をも持っている。詳しくは後述する。
- (3) 国立国語研究所（1964）の同項目では、「うきうき、わくわく、ほくほく、そわそわ」の四語しか挙げられていない。
- (4) それぞれの辞書の記述内容をまとめると、こ

れらの語の意味解釈は次のようになる。「うかうか＝何かに気をとられて、不注意でいる様。はっきりした心の働かない様。油断のある様子。」「くらくら＝めまいがする（続く）様子。めまいを感じて倒れそうになる様子。湯の煮え立つ様子。」「でれでれ＝だらしのない様子。言動にしまりのない様。いちゃついている様子。」「のびのび＝気持ちや行動などがおおらかで、自由である様子。自由でゆったりとした様。くつろいだ様子。」「ほいほい＝気軽にまたは軽率に物事を引き受けたり、なんの苦もなく物事を片付けたりする様子。手軽な方法で多くの成果が得られる様子。ためらわずにやる。」「くすくす＝声をころしてひそかに（続けて）笑う様子。こらえきれずにしのび笑いをする様子。しのんで笑う様子（声）。」「くつくつ＝我慢しきれなくて、少し声を出して続けて笑う様子。こらえきれずにもらす笑い声。物が煮える音。」

- (5) つまり、その語釈の中に、「喜ぶ（喜び）」「嬉しい（嬉しさ）」「喜ばしい」「楽しい（楽しさ・楽しみ）」「喜悅」「愉快」「快い」「爽快」「爽やか」「期待（感）」「浮かれる」といったような記述が明記されていること。
- (6) 拙稿（2002）で取り上げたのは、「いそいそ、うきうき、ぞくぞく、そわそわ、ほくほく、わくわく」の六つである。今回の新しい文献調査により、四つの語を新たに考察の対象に補足した。
- (7) 表3では、「うきうき」と「わくわく」についても同様な説明がある。なお、小学館（2003）にも、「浮き浮き・わくわく・いそいそ・ぞくぞく」の「共通する意味」として、「うれしくて、また心が騒いで落ち着かないさま。」という記述がある。
- (8) 相関（類義）関係について比較的一致するのは「うきうき・わくわく・ぞくぞく」および「いそいそ・うきうき・そわそわ」の二つだけである。
- (9) もっとも、下記のような「いそいそ」「さば

さば」の例は、一見「マイナス的な意味」の用法であるかのように思われるが、

○フランス語がわからないむすこは、それでも毎朝いそいそと登校する。(天沼1974)

○監督は大敗にさばさばとした表情だった。  
(飛田・浅田2002)

これは決して「フランス語がわからないから⇒いそいそと登校する」、或いは「試合に惨敗したから⇒さばさばした」というような因果関係ではない。換言すれば、その人に「いそいそ」又は「さばさば」と感じさせた理由はほかにある(又は潜んでいる)のである。例えば、「フランス語はわからないが、ほかに楽しいことがいろいろあるから」とか、「大敗を喫した試合に納得できるので」といった「プラス的な意味」の理由が考えられよう。この点をよく証明してくれたのは次の例である。

○借金を全部返してボーナスは残らなかったがさばさばと気持ちよい。(阿刀他1993)

つまり、「さばさばと気持ちよい」の理由は、「ボーナスが残らなかった」ではなく、「借金を全部返した」としか考えられない。要は、「不快なものや嫌なことなどを切り捨てて、又は面倒なことや嫌なことなどが片付いて、さわやかな気分になる」というのが本来の理由であろう。ちなみに、「さばさば」にはこの用法の例が比較的多く見られる。

○「辞任の朝、A大使はさばさば」  
(有賀他2001: 209)

○自分が5敗もしたというのにさばさばと新横綱歓迎の意思を表わした。(天沼1974)

○「やっぱりだめね、西ドイツやソ連の選手は、7、8年同じ馬に乗っているのですもの」とさばさばしていた。(天沼1974)

○「ねらっていたが、打たれてしまったのはしかたがない」と案外さばさば。  
(天沼1974)

○「…完敗、つきもなく、完全な負けゲームでした」とT監督はさばさば。(天沼1974)

○「離婚届は11月上旬に提出、この日はサバサバとした表情だった」。(山口仲美2003)

(10) 但し、下記のように、aとbのどちらに属するかはっきり言えない、いわばその中間的なものの例も見られる。

○40歳になったら、定年まであと15年ということで、もうそわそわ始める。(天沼1974)

○「両手で坊っちゃんを抱へてそはそはと電車に乗った」(尚学図書・言語研究所1991)

○小学校の低学年では、授業中トイレに行きたくなくてそわそわする生徒が必ずいる。  
(阿刀田・星野1993)

○「あの時は八回途中から投げて3点を失った。抑えたいという思いが強すぎて、ふわふわしていた」(朝日新聞1998/8/20)

(11) これに関して、有賀他(2001)から大きなヒントを受けた。

(12) 有賀他(2001: 22)は「いい天気で朝からうきうき/\*わくわくしている。」の成否について、「わくわくする」は「うきうきする」と違い、これから起こることに対してしか言えないため、「すでにいい天気である」ことに対して「わくわくする」ことはないからす、と述べている。

(13) 有賀他(2001: 20~21)にも同様な指摘がある。

(14) これは、後述するように、この三つの語は第一人称の文脈使用が多いこと、又は人称不特定の文脈使用が多いことに深くかかわっていると考えられる。

(15) これに関して、有賀他(2001: p5; p109)の解釈は否定的のようである。

(16) 有賀他(2001: 104~105)によれば、「ぞくぞく」は「その時の気持ちをあとから描写するのに用いることが多いよう」だ、という。

#### 【参考文献】

浅野鶴子編(1978)『擬音語・擬態語辞典』角川書店

阿刀田稔子・星野和子(1993)『正しい意味と用

- 法がすぐわかる 擬音語・擬態語使い方辞典』  
創拓社
- 天沼寧編 (1974) 『擬音語・擬態語辞典』東京堂  
出版
- 有賀千佳子・大淵裕子・桜木和子・桜木紀子・玉  
置亜衣子著 (2001) 『ことばの意味を教える  
教師のための ヒント集—気持ちを表すこ  
とば編—』武蔵野書院
- アンドルー・チャン著 (1990) 『<和英>擬態語・  
擬音語分類用法辞典』大修館書店
- 荻阪直行 (1986) 「擬音語・擬態語の感覚尺度(I)  
ことばの精神物理学—連想順位表に基づく分  
析—」『追手門学院大学 文学部紀要』20
- 大野晋・浜西正人著 (1981) 『角川類語新辞典』  
角川書店
- 尾野秀一編 (1984) 『日英擬音・擬態語活用辞典』  
北星堂書店
- 金田一春彦 (1978) 「擬音語・擬態語概説」(浅野  
(1978) 所収)
- 国立国語研究所 (1964) 『分類語彙表』秀英出版
- 国立国語研究所編 (2004) 『国立国語研究所資料  
集14 分類語彙表 (増補改訂版)』大日本図  
書
- 五味太郎 (1989) 『英語人と日本語人のための  
日本語擬態語辞典』ジャパンタイムズ
- 柴田武・山田進編 (2002) 『類語大辞典』講談社
- 尚学図書・言語研究所編 (1991) 『擬音語・擬態  
語の読本』小学館
- 小学館辞典編集部 (2001) 『現代国語例解辞典  
(第三版)』小学館
- 小学館辞典編集部 (2003) 『使い方の分かる 類  
語例解辞典 (新装版)』小学館
- 中村明 (1993) 『感情表現辞典』東京堂出版
- 西尾寅弥 (1993) 「喜び・楽しみのことば」『日本  
語学』12—1
- 飛田良文・浅田秀子 (2002) 『現代擬音語擬態語  
用法辞典』東京堂出版
- 藤原与一・磯貝英夫・室山敏昭 (1985) 『表現類  
語辞典』東京堂出版
- 増田アヤ子 (1993) 『すぐに使える実践日本語シ  
リーズ2 ニュアンスがわかる擬声語・擬態  
語 (上級)』専門教育出版
- 山口翼編 (2003) 『日本語大シソーラス—類語  
検索大辞典』大修館
- 山口仲美編 (2003) 『暮らしのことば 擬音・擬  
態語辞典』講談社
- 俞晓明 (1999) 『現代日本語の副詞の研究』大連  
理工大学出版社
- 俞晓明 (2002) 「试论汉、日语中表示欢乐的拟态词”  
(试論漢、日語中表示歡樂的擬態詞「中日兩  
語における「喜び」を表す擬態語について」  
《欢乐的沉思》大連外国语学院比较文化研究  
所編 中国文联出版社
- 米谷春彦 (2001) 『早引き 類語連想辞典』ぎょう  
せい
- 林玉恵 (1999) 「日中語彙の比較研究—感情語彙  
を中心に—」『日本語論究6—語彙と意味—』  
和泉書院
- 類語研究会編 (1991) 『正しい言葉づかいのため  
の 似た言葉使い分け辞典』創拓社

[Abstract]

## The Semantic Interpretation and Usage of the Mimesis "Joy"

Xiao ming YU

Although it is generally understood that the one-character group showing "joy" is a Japanese mimesis, the question remains as to what kind of words are contained in this group. Moreover, what exactly is the difference between their semantic usages? These are problems that should be investigated deeply. This paper is an attempt to solve the above questions and problems. This paper examines the semantic classification and correlation, usage, and the syntax features for the mimesis (ABAB type) showing "joy." The problems of precedence reference and its deficiencies are pointed out, and the characters, features, and differences of the meaning, usage, and syntax of this grouping are clarified.

---

Key words : Mimesis of "Joy", Semantic Interpretation, Correlation, Usage, Syntax Feature.